

令和5年度 第1回 学校運営協議会 議事録（要旨）

- 1 日時 令和5年7月12日（水） 16:00～17:00
- 2 場所 校長室
- 3 出席者 石田会長、藤本委員、谷口委員、山口委員、村田委員、古川委員
檜崎校長、末永教頭、橋岡事務長、新田首席、貞廣首席
その他教員 5名

4 次第

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 令和5年度学校経営計画及び学校評価について
- (4) 令和6年度使用教科用図書を選定について
- (5) 閉会

5 協議・意見交換

<令和5年度「学校経営計画および学校評価」について>

校長より主旨説明：計画には就職率や離職率、学校評価のアンケートなどの具体的な数値目標を設定している。就労を通じた社会自立をめざす生徒を育てる学校として、職業学科を中心に各教科の授業で生徒のキャリア発達に寄与できることを常に模索している。また、生徒会や部活動なども含めた幅広い活動に取り組んでおり、全国大会で優勝した部活動を含め4つの部活動で全国大会に出場した。学校保健研究大会やアビリンピックへの参加することを通じて生徒が自信を深めることができている。今年度の入学者選抜では、志願者数が大幅に減少したので、オープンスクールや学校説明会などの場で本校の魅力を発信できるようにしていきたい。卒業生のアフターフォロー体制を構築し、離職の可能性がある場合、早期に対応できるようにしていく。離職した場合にも転職や次の進路先へつなぐ支援を行っている。

[質問] 特になし

[討議事項]

(委員)：昨年入社した卒業生がアビリンピックに出場し、銀賞を獲得することができた。本人の頑張りのもあるが、学校での支援の成果でもあると考えている。

(委員)：高等学校では離職率が高くなっていることが大きな課題となっているが、高等支援学校の卒業生は就職率が高く、離職率も低い。これは実習を数多く重ね、在校時のマッチングを丁寧に行っていることが影響していると考えている。

(委員)：高等学校での課題となっている事象を教育委員会やその他の機関と情報共有し改善するシステムはあるのか、なければそのシステムづくりが必要なのではないかと。

(委員)：大阪府の就業・生活支援センターや支援教育課と会議を行い、課題を共有している。教育と福祉、労働の各機関が密接に連携をとり、対応していくことが必要となっている。

(校長)：高等支援5校での校長会の際に教育委員会の指導主事も参加するので、その場でも共有していきたい。義務教育段階での困りやつまずきを経験した生徒が学ぶステップスクールが来年度、大阪に2校開校される。個性を重視した教育課程で人間関係の基礎から学ぶことをめざし

ている。このような学校も選択肢とすることができるようになる。

<令和6年度教科用図書選定について>

(校長)：別紙一覧のとおり、令和6年度に使用する教科用図書の選定を各教科で進め、2回の教科書選定委員会を経て、選定している。日常生活で活用できるような授業を行うのに必要な教科書を選定した。サンプルを用意しているので手に取って閲覧していただきたい。

[質問・討議事項なし]

<令和4年度卒業生進路状況について>

(事務局)：45名中35名が企業就職、福祉事業所利用8名であった。未定2名のうち1名は福祉事業所利用が決定。残る1名も追指導として福祉事業所へ同行している。今年度も多くの生徒が希望する進路を実現するために現場実習などに取り組んでいるところである。

(委員)：今年入社した卒業生が初任給で自分たちの趣味の活動に使った話を2人でしていたり、家族へプレゼントした話を聞かせてもらった。

(校長)：先日もオンラインでの企業見学、タグラグビーの出前授業など様々な面で支援していただき感謝している。

(委員)：企業就職者35名の正社員、契約社員、パートタイマーの内訳はどのようになっているか。

(事務局)：正社員8名、契約社員8名、パートタイマー19名であった。

(委員)：法定雇用率が来年、再来年と引き上げられることを見越して、企業はスピード感をもって採用活動を活発化させている。求人の問い合わせも多数寄せられているので、随時お伝えしていく。

(事務局)：生徒の進路先が充実するのは非常にありがたい。引き続き連携をとっていきたい。

校長：閉会の挨拶